

奄美図書館だより

平成25年10月1日発行
第268号(10月号)
鹿児島県立奄美図書館

〒894-0016 奄美市名瀬古田町1-1 0997-52-0244

HP address: <http://www.library.pref.kagoshima.jp/amami/>

E-mail address: ama-lib@pref.kagoshima.lg.jp

2013・第67回「読書週間」 10月27日～11月9日

読書週間は、今年で第67回になります。終戦の2年後の昭和22年、また戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と公共図書館が力を合わせ、そして新聞・放送のマスコミ機関も一緒になり、第1回「読書週間」が開催されました。各地で講演会・図書に関する展示会が開かれ、その反響は大きなものでした。

それから60年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民」の国となりました。

今年の「読書週間」の標語は、

本と旅する 本を旅する

です。作者の平佐大輔さん(北海道)は、「旅とは非日常の体験。読書は日常の中で、非日常を体験。ここではないどこかの景色を眺めつつページをめくると、双方が微妙に入り交じり、なぜかいつもより登場人物や取り巻く世界観に強く思い入れしてしまうことがあります。そんな感覚って素敵ですね。」と述べています。

日常では体験できない世界を楽しむことで生活を豊かにし、自分自身を見つめ直し、人生観までも広げてくれる読書のすばらしさを感じるこのことのできる言葉です。

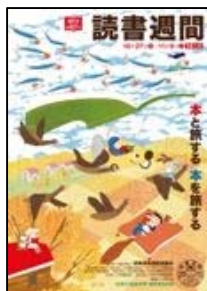
今年の「読書週間」が、多くの方々に本・読書のすばらしさを知ってもらえるきっかけとなることを願い、奄美図書館でも次のような催しを計画しています。ぜひお越しください。

郷土コーナー企画展 10/26(土)～1/30(木)

書庫見学会 11/4(月)

読書週間ポスター・標語展

10/26(土)～11/10(日)



奄美先人の知恵 カムイヤキ陶器窯跡

カムイヤキ陶器窯跡は、徳之島伊仙町で、11世紀後半の平安時代終わりから14世紀前半の鎌倉時代に、陶器が作られた窯の跡です。1983年、ため池整備事業の最中に発見されました。東西約1.5キロメートル、南北約800メートルの範囲に、窯跡が七つに分かれて分布し、全体で100基ほど存在すると推定されています。

鹿児島県の一部、トカラ列島、奄美諸島、沖縄諸島、先島諸島などの南北1200キロメートル以上にも及び、平安時代末期あたりの遺跡では、それまでの時代とは全く違った焼き物が出土され、注目されていたにもかかわらず、生産地が不明でした。

元伊仙町歴史民俗資料館の義憲和館長は、伊仙町伊仙のミンツィキという遺跡からの出土品に失敗したものが多くに目撃し、商品価値のほとんどない製品が遠くから入ってくることはない、近くに生産地があるはずだと考えていました。

また、現在、伊仙町歴史民俗資料館長である四本延宏氏は、当時、伊仙の阿三集落にある「カムイヤキ池」の名前の由来が気になっていました。徳之島では、壺やかめのことを方言で「カムイ」と言い、「カムイヤキ池」は「壺やかめを焼いた池」という意味になります。集落の古老たちは、戦後間もないころまで一人の陶工がその池の近くで焼き物をしていたことが、「カムイヤキ池」の名前の由来であると話していました。

四本氏は、カムイヤキ池の周辺の調査を行いました。そして、整備のために水が全部抜かれ、周囲の草も取り払われた池で、焼き物の破片を見つけます。さらに、ため池の底で半径2メートルほどの赤黒い土が壁状になっている焼き物の窯跡を見つけたのです。

カムイヤキ陶器は専門の職人により大量に生産され、徳之島から南北1200キロメートルにも及ぶ広い地域に売られたと考えることができます。まだ琉球王国も成立していない時代に、徳之島を中心として壮大な交易体制が確立されていたことは驚くべきことです。

カムイヤキ窯跡は、平成19年に国指定史跡として登録されました。四本氏は、「奄美諸島の中世時代はわからないことばかりで真っ暗闇の状態でしたが、この発見により、最も光り輝いていた時代であったことがわかりました。みなさんの周りの古い言い伝えや地名にもなぞがかくされていて、みなさんがそのなぞを発見してくれるのを今か今かと待っているのかもしれない。」と『郷土の先人に学ぶ 第5集』に記しています。

お知らせ

参加して
みませんか!



あまみならでは学舎 6

○日時 平成25年10月5日(土) 14:00～15:30

○場所 鹿児島県立奄美図書館 4階 研修室

○内容 演題 「南海日日新聞に見る復帰60年のあゆみ」

講師 南海日日新聞社編集部長 松井 輝美氏

読み聞かせボランティア養成講座

○日時 平成25年10月12日(土) 9:15～12:10

○場所 鹿児島県立奄美図書館 4階 研修室

○内容 「読み聞かせ」についての講義・実習

「土曜日おはなし会」での実演

○対象 大島地区に居住する高校生以上の方

○定員 10名(先着順)

○締切 平成25年10月8日(火)

奄美群島日本復帰60周年記念

復帰関係資料巡回展

○内容 奄美群島日本復帰関係資料の展示

(鹿児島県立奄美図書館及び各市町村所蔵)

企画パネル展等の展示

○日時・会場

① 与論島会場(与論町立図書館)

平成25年10月6日(日)～10月12日(土)

② 喜界島会場(喜界町立図書館)

平成25年10月19日(土)～10月27日(日)

③ 徳之島会場(徳之島町生涯学習センター)

平成25年11月3日(日)～11月10日(日)

④ 沖永良部会場(知名町中央公民館)

平成25年11月17日(日)～11月24日(日)

⑤ 奄美大島会場(奄美市立奄美博物館)

平成25年12月7日(土)～12月13日(金)

⑥ 鹿児島会場(鹿児島県立図書館)

平成26年2月11日(火)～3月14日(金)

郷土コーナー企画展

○日時 平成25年10月26日(土)

～平成26年1月30日(木)

○場所 鹿児島県立奄美図書館 2階郷土コーナー

○内容 恵原義盛没後20周年記念スケッチ画展

※ お問い合わせは、鹿児島県立奄美図書館まで

TEL 0997-52-0244 FAX 0997-52-9634

10月の行事カレンダー

月	日	曜	行事・催し
10	2	水	おはなしの森 15:30~
	3	木	奄美郷土研究会 15:30~
	5	土	おはなしさんぽ 10:30~ あまみならでは学舎 14:00~15:30
	6	日	奄美群島日本復帰60周年「復帰関係資料巡回展」 (与論町立図書館 ~10/12)
	7	月	休館
	9	水	おはなしの森 15:30~
	10	木	青嶺短歌会 13:00~17:00
	11	金	育児サークル「こっちむいて」10:00~
	12	土	土曜日おはなし会 11:30~ 読み聞かせボランティア養成講座
	15	火	休館
	16	水	おはなしの森 15:30~
	19	土	あまみ子どもライブラリー 10:00~ 大島地区小学校国語教育研究会 9:00~ 読書会「島にて」10:00~12:00 ろんど文章教室 13:00~17:00 奄美群島日本復帰60周年「復帰関係資料巡回展」 (喜界町図書館 ~10/27)
	21	月	休館
	23	水	おはなしの森 15:30~
	25	金	休館(整理研修) ネリヤカナヤ創作童話スクール審査結果発表
	26	土	郷土コーナー企画展(~1/30)
	27	日	読書週間(~11/9)
	28	月	休館
	30	水	おはなしの森 15:30~
11	4	月	書庫見学会

11月の休館日予告

5日(火)・11日(月)・18日(月)・25日(月)

26日(火)~30日(土)(特別整理に伴う休館 ~12/5)



今月の新着図書コーナー

読書の風を
奄美から

児童

しゃっくりがいこつ
マージェリー・カイラー セーラー出版
ぐきがさんとふへぼさん
岸田 衿子 福音館書店
かぶと3兄弟
宮西 達也 教育画劇
たまごがいっぱい
寺村 輝夫 理論社
ケンムン・ケンとあそんだ海
山下 明生 大日本図書
ハイパーレスキュー災害現場へ走れ!
深光 富士男 佼成出版社
クラゲゆらゆら
楚山 いさむ ポプラ社
その他74冊

郷土関係

私の戦争体験 上
鹿児島文庫編集部 編 春苑堂出版
その他5冊

おすすめの本

にひきのかえる

新美 南吉 理論社
『ごんぎつね』などの童話で知られる新美南吉は、今年で生誕100周年を迎えます。この『にひきのかえる』には、「みどり」と「きいろ」のかえるが登場します。二匹のかえるは、お互いの色を美しくないとけなし合い、けんかを始めます。しかし、決着がつかないまま冬眠の時期となり、春になったら勝負をつける約束をして冬眠に入ります。やがて春が来て、目覚めた二匹が再び出会い、とった行動とは・・・最後の一文がすんと心に落ちてきます。

一般

世界を変えた10人の女性
池上 彰 文藝春秋
空を見上げたくなる本
山本 光義 技報堂出版
ゴーヤレシピ
植松 良枝 主婦と生活社
その他185冊

小説・随筆

クロースアップ
今野 敏 集英社
きみの町で
重松 清 朝日出版社
バスを待って
石田 千 小学館
言葉が立ち上がる時
柳田 邦男 平凡社
その他32冊

進学・ビジネス支援

仕事に必要なのは、「話し方」より「答え方」
鈴木 鋭智 中経出版
その他9冊

ボケたっていいじゃない

関口 祐加 飛鳥新社
昨年、YouTubeで話題となった『毎日がアルツハイマー』という長編動画を作った、関口祐加さんが書いた本です。
もともと真面目で厳しかった母が、認知症発症により喜怒哀楽がはっきりとした性格に変わったことに、娘である著者は、「母が解放された」と喜びます。認知症の母親と、その介護をする娘の日常を綴った本、というとネガティブな気分になりそうですが、著者が母親の存在自体をそのまま受け入れて、母と娘の関係を新たに作り直していく姿に、とても前向きな気持ちになれる1冊です。